

研究課題名「遠隔転移を有する切除不能進行膵癌に対する全身治療後 conversion surgery の意義に関する観察研究」に関する情報公開

1. 研究の対象 1981年1月1日～2019年12月31日までに当院で膵切除術を受けられた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

外科的切除は膵癌に対し根治が期待される唯一の治療法です。近年では治癒切除不能な膵癌に対して FOLFIRINOX および GnP 療法が承認され、従来のレジメンと比較してより良好な奏効率や予後改善効果が得られるようになりました。これら術前治療の選択肢が加わったことで、遠隔転移を伴う切除不能膵癌に対しても、化学療法や化学放射線療法を行った後の手術（conversion surgery）による予後改善効果が期待されています。さらに、今後は切除不能膵癌においても集学的治療のどの段階で手術治療を行うことが最も治療効果が高いか、という観点から膵癌治療を考える必要があります。

1981年1月1日～2019年12月31日までに当院で膵切除術を受けられた方を対象とします。収集された臨床情報を用い、遠隔転移を有する膵癌における conversion surgery の臨床的意義を retrospective に解析します。CS 後の組織学的効果判定、予後、再発症例における再発部位などの検討を行います。

研究期間：実施承認日～2021年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、膵疾患治療歴、手術日、手術前後の血液検査結果、腹部 CT 画像等

試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学
TEL: 052-744-2245 FAX: 052-744 -2252

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学・助教・林真路

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学・教授・小寺泰弘